

一人ひとりの教員が意欲的に取り組む校内研究の在り方

— 学びの意識化サイクルの構築 —

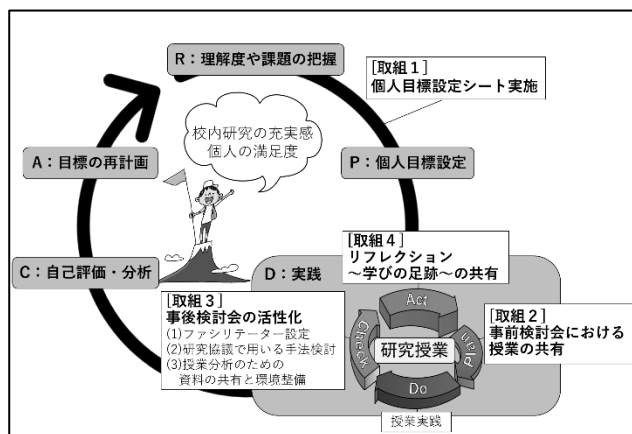
横浜国立大学教育学研究科高度教職実践専攻
堤 健斗

1. 学校の現状と課題

A 小学校では、2018年度より「ユニバーサルデザイン（以下、UD とする）を取り入れた授業づくり」をテーマとし校内研究に取り組み、今年度で2年目になる。取組内容としては、研究授業を中心に学校・教室環境の整備や授業デザインの共有を行っている。学校現場の多忙化が進み、校内授業研究の形骸化が指摘されている中、A 小学校の教員がどのような意識で校内研究に取り組んでいるのかを明らかにするため、教職員を対象に「校内研究に対する意識・実態調査」を行った。すると、研究実践と個人の授業力向上の意識が結びついていないことや研究授業が授業者以外の教員にとっての課題意識になっていないことが課題として見えてきた。

2. 研究の全体像

調査による課題解決のために4つの取組を考えた。それを図式化すると図 1-1 のようなサイクルになる。本研究では、これを「教員の学びの意識化サイクル」と定義する。



【図1-1 教員の学びの意識化サイクル】

3. 研究の目的

研究の全体像をふまえ、本研究では、教員一人ひとりが校内研究における目標を設定し、目標の達成に向かう学習過程「教員の学びの意識化サイクル」（図1-1）を回すことで、校内研究の充実感や個人の満足度が向上することを目指す。取組1～4の校内研究推進委員会での検討・実施を通して、個人が意欲的に参画する研究授業、授業検討会を構築し、その効果を検証する。

4. 課題解決方法

【取組1】 個人目標設定シート実施…自身の理解度や課題をUD 授業チェックリスト通して明らかにし、実践との差が大きかったものを個人目標として設定する。

【取組2】 事前検討会における授業の共有…教員一人ひとりが自身の課題として研究授業に臨むよう、研究授業を全校で共有する手立てとして3つのステップを踏む。

【取組3】 事後検討会の活性化…協議内容の深化を目指し「ファシリテーターの設定」「研究協議で用いる手法の検討」「授業分析のための資料の共有と環境整備」を実施する。

【取組4】 リフレクション～学びの足跡～の共有…個々の学びの振り返りと蓄積を全校で共有するため、授業検討会後に、リフレクションシートに記入し共有する。

5. 結果と考察

「教員の学びの意識化サイクル」に取組を位置付けて実施したことで、取組ごとに繋がりが生まれ、相乗効果を得る結果となった。事前検討会での授業内容の把握と課題意識が事後検討会の協議内容を深化・発展させた。また、個人目標の設定と共有が検討会の協議の柱立てや目標達成を意識したリフレクションになった。この一連のサイクルを継続させていくことで校内研究の充実感や個人の満足度が向上すると考える。

今後、取組ごとの妥当性を吟味していくとともに、個人目標設定や達成の基準について、研究テーマに対する段階（ステージ）や指標を提示したりして明確にしていきたい。また、校内研究に係る時間の負担軽減に向けても取組内容の精査を行い、「教員の学びの意識化サイクル」のパッケージ化に向けて検討していきたい。

主な参考文献

- 姫野完治, 相沢一(2007)校内授業研究における事後検討会の分析方法の開発と試行. 秋田大学教育学部研究紀要. 教育科学部門 62p.35-41
- 小林克樹(2013)校内研修における教師の協働が研修意欲に与える効果に関する事例研究. 教育実践研究第23集